

伝統の舞

— 端正に、そして、躍動 —



①熊谷次郎直実と平敦盛の一騎打ちの場面を表した「熊谷敦盛」。□□さん②と□□さん③が熱演。②初の競演会の舞台で「露払」を披露した4人。左から□□さん、□□さん、□□さん、□□さん。③「鞍馬」に出演した□□□□さん④は、京の五条大橋で弁慶を打ち負かす牛若丸を演じました。④五穀豊穡を祈る「山の神」。⑤「露払」は中学生も披露。左から□□さん、□□さん、□□さん、□□さん。⑥⑦囃子手は、舞手たちをいちはん近くで見守ります。⑧3人で激しく動きながら舞う「三剣舞」。⑨面の豊かな表情が特徴的な「三番叟」。⑩曾我十郎、五郎兄弟の戦いぶりを表現した「曾我兄弟」。刀が激しくぶつかり合います。



今年で50回目の開催 五城目町番楽競演会

全国でもあまり例のない特殊な芸能「番楽」。その起源は修験という山伏集団の宗教的な舞「神楽」であったと言われ、悪霊を追い払い、天下泰平、五穀豊穡を祈る意味が込められた舞に武士舞や女舞が加えられ、独自に発展してきました。

町では、その番楽の保存と伝承を目的に、毎年の神明社祭典前夜に「番楽競演会」を開催しています。

50回という節目を迎えた今年の競演会は、5月18日に五城目神明社神楽殿で開催し、山内番楽保存会、子ども番楽教室、三種町の志戸橋番楽保存会の皆さんが出演しました。

7種類の舞が 競演を繰り広げる

始まりは子ども番楽教室で昨年11月から練習を重ねてきた伊藤□□さん(五城目小4年)、藤田□□さん(同4年)、畠山□□さん(同4年)、小玉□□さん(同4年)、猿田□□さん(同4年)の4人による「露払」。ボンボリや扇子を手に持ちながら、踊る場所、舞い手、囃子手、観客など、すべてを祓い清める意味が込められた、競演会の序幕にあたる舞を堂々と披露しました。

その後も、番楽教室の生徒たちが続々と舞います。石井□□さん(五一中3年)、畠山□□さん(同1年)、川村□□さん(同1年)、館岡□□さん(同1年)の4人が引き続き「露払」を、佐々木□□さん(同1年)が「鞍馬」を、佐藤□□さん(同3年)と川村□□さん(同3年)が「熊谷敦盛」をそれぞれ披露しました。

また、山内番楽保存会の皆さんによる「山の神」、「曾我兄弟」や、志戸橋番楽保存会の皆さんによる「三番叟」、「三剣舞」など、合わせて7種類の舞が勇壮に披露され、それぞれの演目が終了するたびに、観客からは大きな拍手が送られました。